



医療法人 榮祐會

## ゆうもりデンタルクリニック

大阪府大阪市住吉区万代東1-4-17 アルデール帝塚山101  
TEL.06-6699-8484 FAX.06-6699-8485  
<http://www.yumori-dc.com>

# 針のない麻酔、レーザー治療など多様に活用し、負担の少ない笑顔のクリニックを目指す！

対談 理事長・院長

祐森 正幸 × インタビュアー「俳優」萩原 流行

萩原 閑静な住宅街で知られる大阪・帝塚山に程近いゆうもりデンタルクリニックさんを訪ね、祐森院長に昨今の歯科事情など色々と伺ってまいります。まずは私事で恐縮ですが、毎日どんなに遅い時間に帰宅しても一時間ほど掛けてしっかり歯を磨くことを習慣にしています。それに俳優という職業柄、半年に一度は歯周病予防など歯のメンテナンスを兼ねて歯科医院に行くのですが、先生からは「歯垢ゼロです。こんなに綺麗な歯は珍しいですね」といつも誉められるのですよ(笑)。

祐森 歯磨きを日課に組み込まれているのは素晴らしい心掛けですね。

萩原 かれこれ十年になります。ワールドニュースを見ながらの歯磨きで一日を終えるー今ではそうしないと何だか落ち着かないのですよ(笑)。細くて柔らかい歯ブラシで一本一本丁寧に歯の裏表をブラッシングするので、喫煙者であるにもかかわらず歯の状態はとても良い」と。

祐森 ブラッシングする距離ー私どもではストロークと呼んでいます。これを短くして磨くのが理想的な歯磨きだと患者さん

んにお伝えしています。歯と歯の間にブラシの毛先が入りますから隅々まで磨けて歯周病予防に繋がりますし、例えば湯舟などに浸かってリラクゼーションしながら磨くと余計な力が掛からず、歯や歯茎を傷めること

もありません。萩原さんも一日の終わりにニュースをご覧になりながら落ち着いた気分です。磨いておられることから、より効果が上がっているのだと思います。

萩原 ありがとうございます(笑)。前置きが長くなりましたが、こちらは開業からどれくらいになるのですか。

祐森 平成十四年の開業ですからかれこれ八年目になります。平成十二年に北海道医療大学を卒業した私は、一年間歯科医院で勤務医として研鑽を積んだ後すぐにこの地で開業しました。

萩原 一年間の勤務で開業とは珍しいですね。ご実家も歯科医院ですか。

祐森 いえ、実家はシヨールと日傘、雨傘を売っていて、和傘もあり花街の芸舞妓さんにも名前を入れて納めていました。歯科とは縁のない環境で育ったわけですが、巡り巡って歯科医を目指すことになりました。

萩原 では、何がきっかけで歯科医を目指されたのか、詳しくお聞かせ下さい。

祐森 そもそも私は三歳の時から喘息を患い、三年保育だった幼稚園でも一カ月単位の皆勤賞すら一度しかもらえないほど虚弱体質で、病院にばかり通っていたのです。母からは「あなたは身体が弱いから普通の仕事には就けない。こんな身体に産んでしまったってごめんね」と言われ、家業を継ぐことをあきらめ、もともと母は医者さんが好きだったことから(笑)、子供ながらに母を喜ばせようと医学の道を志すようになりました。また、体調を崩しては頻りに近所の医院にお世話になっていたことから、お医者さんの仕事ぶりを目の当たりにするうち、いつしか漠然とですが白衣に対する憧れが芽生えたことも動機のひとつです。

萩原 なるほど。ちなみに実家の傘屋さん

は現在のよう

祐森 一人っ子だった私が後継がなかったのもありますが、高齢となった父は店を廃業し、現在は地域へ恩返しをするため商店街の活性化に尽力しています。

萩原 ところで、勤務医として研鑽を積んだのは一年間ですが、もともと開業への思いは強かったのでしょうか。

祐森 はい。再び幼少時代の話になって恐縮ですが、「痛がり」な私は風邪や喘息などでお医者さんに通うたびに点滴や注射で怖い思いをしました。そのような経験から自分が歯科医師になって患者さんを治療する際は従来通りの「除痛屋」になるのが嫌だったので、できるだけ肉体的・精神的に負担を掛けず、コストを度外視して自分でやりたいような治療をしようと考えていました。しかし勤務医ではなかなか思い描く治療を実現するのは難しいものから、「自ら決めた治療方法や機器を導入して痛くない、負担のない医療サービスを提供できるクリニックを開業するしかない」と、二十六歳での独立を決意した次第です。

信念が凝縮されたクリニック

萩原 幼少時の経験をベースに二十六歳の開業ー当初は色々とお苦勞も多かったのではないかと拝察しますが。

祐森 そうですね。歯科医になって一年後の独立ということから、臨床経験の少なさが開業当初の最大のネックだったわけですが、それを補うために様々な努力を重ねました。例えば博士号を取得するための研究を続けながら、その成果を何とか患者さんへ還元できないかと模索したり、歯科治療に留まらずあらゆる分野の情報収集を積極的に進めるといったことです。

萩原 多様化した現代社会にあって、単に歯を治療するだけでは歯科クリニックの存在感を発揮し切れないということですか。

祐森 おっしゃる通りで、患者さんの日常生活にも関心を持ち、それぞれの趣味や生活環境なども把握し、他愛のない話題を軸にしてコミュニケーションを図ることが医療には不可欠だと私は考えます。意思疎通がしっかりでき、信頼できる医師がおり、そ



して通院しやすいクリニックこそが地域に認めて頂ける最大の要因ではないかと。開業から八年目を迎えたわけですが、お陰様でご近所の皆様にはスーパーの店内や自転車での通勤中に声を掛けて頂く機会も多くなりました。診察室以外でも気軽に交流できるのは、私やスタッフにとって本当に嬉しいことなのです。地域の一人と認めてもらえている何よりの証拠ですから。

**萩原** では、改めてこの八年を振り返ってのご感想をお聞かせ下さい。

**祐森** あっという間に過ぎたという気がしますね。率直に申し上げますと、開業時に金融機関から多額の融資を受けたのですが、返済のために経営者の目線でクリニックを見る必要でした。つまり歯科医師と経営者の二役を担う苦勞を経験したわけですが、自分の役割に没頭したことで借り入れたお金は数年で返済。その後は自分のクリニックを持たたことに慢心せず、勉強会に参加するなど常にアンテナを張って進化しながら患者さんと接することを motto に、スタッフともしっかり向き合い、協力しながら他の歯科医院にはないサービスの追求を念頭に邁進してまいりました。今では開業はゴールではなくスタートだったとの思いを強くしているところです。

**萩原** 他の歯科医院にはないサービスとは具体的にどういったものですか。

**祐森** 臨床経験が少なかった分だけ他の方法で補おうと、開業した年にJ・A・S・ホワイティング研修を、二年後に日本歯科医師会生涯研修を、更にその二年後には障害者歯科研修に参加して必要な課程を修得しました。また、昨年七月には歯肉の炎症を治療したり浅い虫歯の場合に重宝するヤグレーザーの研修課程も終え、早速この機器を導入しました。ヤグレーザーは削る治療では



SAMPLE

ないので痛みの原因となる摩擦の熱が発生しません。加えて虫歯の黒い部分だけに反応することから、歯の健康な部分まで削る恐れがないスグレモノなのです。

**萩原** イメージ的には虫歯を削り取るのではなく、消してしまうような感覚ですね。それにしても歯科の治療内容が日々進化していることを実感します。

**祐森** 麻酔にしても当クリニックでは注射針のないものを使用しており、パシユット浸透圧で口腔内の粘膜に打ち付けるため全く痛くありません。患者さんの麻酔に対するイメージを和らげるため笑気麻酔や表面麻酔、電動麻酔などこれまで様々な方法が使われてきましたが、注射針に頼らない麻酔は現在の最先端技術と言っても過言ではないでしょう。

**萩原** 診察の合間を縫って研修会などへ積極的に参加されているからこそ良い情報が集まり、最新の技術を即座に患者さんへ還

元することができるのだと思います。

**祐森** 当クリニックの診察時間をご覧になればお分かり頂けると思うのですが、水曜日を除く平日は午前十時から午後の休憩を挟んで午後八時まで対応しています。また、土曜も午後五時三十分まで診察しています。私はその合間の時間を利用して学会を始め講習会や勉強会にできるだけ参加するようにしています。時には専門分野以外の勉強もしており、J・A・Lの接客マナー講座に出席したこともあるのです。

**萩原** 患者さんの気持ちに寄り添うためにはサービス向上のノウハウも学ぶ必要があるのでしょうか。さて、祐森院長が精力的に活動するためにはスタッフの協力が不可欠だと思えますが、そのあたりについてはいかがお考えですか。

**祐森** それは私も重々承知しています。クリニックには私の他に副院長と訪問診療を担当するドクターが数名おりますが、彼らと歯科衛生士などのスタッフ全員に支えられているからこそ私は様々なことを学べるのだと感謝しています。医療法人を掲げてはいますが、私どもはまだまだ規模の小さな組織です。しかしながら組織は長(おき)の力量を超えて大きくなることはありません。なので、私自身もつと成長しなければクリニックもより良くなないと常日頃より肝に銘じています。私が様々なことにチャレンジする第一の目的は当然ながら患者さんのためですが、クリニックをより良い組織にして、スタッフの生活向上に役立ちたいとも考えているからなのです。

**萩原** 治療や技術にこだわったり経営的なことだけを求めるのではなく、すべてが円滑に動いていくように物事をご覧になつていらっしゃる姿勢が素晴らしいですね。ところで、ご実家が京都で傘屋さんを営んでおられると

伺いましたが、こちらで開業されたのには何か特別な理由でもあったのですか。

**祐森** 特に縁があつたわけではありませんが、開業にかかわってくれた業者さんがこの地を紹介してくれました。地下鉄御堂筋線の西田辺駅から歩いて十分、それに阪堺線や市バス通りなどにも近いこの場所はとても便利で住みやすく、私もすぐ気に入りました。全く知らない土地だったものですが、最初は少しでも早く地域に溶け込もうと三社の新聞を同時に購読契約したり、ヤクルトさんと契約したり、周辺の飲食店を回ったりと地域の皆様と知り合いになれるきっかけづくりに奔走し、また、名刺や電球ひとつにしても街の大型店ではなくご近所さんでお世話になりました。このあたりの発想は商家で育つたことが少なからず影響していると思います(笑)。そして八年の歳月が流れ、地域の方々と何かにつけて親しく交流させて頂いている現状を考えますと、開業時に繋がりを求めて奔走したことが懐かしく感じられます。

### 貪欲に学んで患者さんへ還元

**萩原** 最近、歯科医院はコンビニエンスストアよりも多いと聞きますが、祐森院長のお話を聞いていますと、独自のアイデアと強い意志をお持ちになってクリニックを運営されているようで頼もしく感じます。開業以降、院長がずっとこだわっていることと伺います。

**祐森** 重複する部分もありますが、患者さんとのコミュニケーションをいかに気持ちよく図るかを第一に考え、それによって患者さんが通院しやすいクリニックの環境をつくることに腐心しています。私自身が元来「痛がり」なものですから(笑)、注射針のない麻酔やヤグレーザーを導入したり、患

者さんに少しでも安心して頂くことと被曝量の少ないデジタルレントゲンを設置したり、口腔内カメラを使って患者さんと一緒に治療状況を確認できるようにするなど、先端医療を追いかけながら様々な試みを実践しているわけですが、これらすべては患者さんとのコミュニケーションツールであり、また、診療をスムーズに行なつてお互い目指す共通の結果に繋げるためです。

**萩原** 患者の目線で考えて下さる歯科医師が近くにいらっしゃるわけですから、地域の方々は恵まれていると思います。

**祐森** いえいえ、私どもの方が良い患者さんに恵まれているのだと思います。業者さんからの紹介であつたとはいえ、この地で歯科クリニックを開業できたのは縁と運の両方に恵まれた、まさに絶好のタイミングではなかったかと心から幸福に感じています。私が何かの加減で元気がなかったりすると患者さんから「先生、大丈夫?」とか「また喘息なん? 先生、はよ休んでや」と気遣って下さるのですよ(笑)。このようにゆるゆるにデンタルクリニックは患者さんに育てて頂いている部分がたくさんありますので、皆様には感謝の気持ちを忘れてはいけなさと日頃からスタッフにも話しています。

**萩原** この辺りは古くからの住宅街として知られていますが、患者さんの年齢構成はどのような感じですか。

**祐森** 一般的に若いドクターの医院には若い患者さんが集まると言われていますが、当クリニックは土地柄もあつてお年寄りが大半を占めています。つまり足を運ばれる多くの方にとって私は孫の世代に当たるわけですが、私自身は患者さんに甘える形で、自然体で井戸端会議のように診療しています(笑)。また、患者さんがそのご家族、特にお孫さんを何かお口のトラブルがあると連





SAMPLE

注射針のない無痛麻酔や削ることなく虫歯治療ができるヤグレーザーなどを導入し、患者さんの肉体的・精神的負担軽減にこだわりながら診療を進めるゆうもりデンタルクリニックの祐森正幸院長。彼のこだわりの根底には、身体が弱く頻繁に病院通いをしていた中で「痛くない注射や治療をしてくれる病院はないか」と真剣に考えた幼少時の体験があるという。医師になった現在も幼少時代さながらに患者の視点で物事を見てしまうと苦笑するが、その視点こそが信頼を得る基盤になっているのと言うまでもない。

INTERVIEW MASAYUKI YUMORI × NAGARE HAGIWARA

れて来られるケースも多いのですが、中には白衣姿を怖がってしまう小さなお子様もおられますので、そんな時は白衣を脱いで私服姿で治療することもあります。

**萩原** 白衣を見ると緊張するのは子供さんだけではないと思いますが(笑)、治療以外の細かい部分まで配慮して下さるドクターはそういないのではないのでしょうか。

**祐森** 子供の頃よくお医者さんに通ったことは冒頭でもお話ししましたが、それだけに私自身いつまで経っても患者の視点から離れることができないのでしょね。「自分が受けた医療サービスは何か?」「自分が通いやすいクリニックの雰囲気はどのようなものか?」といったことを考えながら日々患者さんと接しています。

**萩原** ところで、掲げておられる科目は一般歯科から小児歯科、口腔外科、審美歯科、ホワイトニング、歯周病、訪問歯科と多岐にわたっています。そこでここ数年デンタルIQの向上と共に注目されているインプラントについて、院長の考え方をぜひお聞きしたいと思っています。

**祐森** 実を言いますと、インプラントに関して勉強会などには参加していましたが、未知の部分がまだまだ多いという理由から導入をためらっていました。しかし最近インプラント用に二ミリでも顎骨が残っていれば、チタン製の人工歯根で義歯が十年は保てるという技術の臨床テストの成績が良いと学会で報告され、私もこれなら顎の骨が少なくなってしまうお年寄りに施術することも可能だと確信したものですから、これから導入していこうと準備を進めている段階です。歯と歯茎の間の細菌の繁殖を抑えるヤグレーザーとの連動した治療により、インプラントの術後の経過を順調にさ

せることもできると期待しています。

**萩原** ただ新しいから取り入れようというのではなく、院長ご自身で根拠を確認してから機器なり治療なり実践されるので患者サイドとしても安心して任せられると思います。参考までに伺いますが、インプラントの他に近々導入する予定のツールは。

**祐森** 歯周病の菌であるスピロヘータを死滅させる強酸性水があるのですが、それを患者さんの口腔内に噴霧する機械を取り入れようと検討中です。勉強会のモニターで見たところ歯周病の治療に効果的でしたので、デモンストレーション用の機器で実際に試してすべての課題がクリアできれば本格導入するつもりです。そしていざれば歯周病菌が消滅していく様子をデジタル顕微鏡を通じて患者さんにご覧頂くなど、関心を持ってもらえるようなことも視野に入れています。強酸性水に限りませんが、治療内容をビジュアル的に示すことがこれからの歯科医療には必要ではないかと考えていますし、治るものだと理解してもらえれば患者さんの治療に対するモチベーションも大きくなるのではないかと。

**笑顔の絶えないクリニックが目標**

**萩原** 歯が悪くなったら抜くしかないと思うのは随分と昔の話で、日々進化する医療技術や機器のお陰で拔牙以外に治療の幅が広がるのは良いことです。私自身レーザーや注射針のない麻酔、強酸性水のお話を伺いながら将来の歯科治療に希望を見出したような気がしており、祐森院長にはこれから研究を重ねて頂き、悪い歯は抜くものという固定観念を変えてもらいたいと切に願っています。

**祐森** ありがとうございます。悪い歯を削り、削った箇所に隙間ができてまた虫歯に

なり、そこを前よりも大きく削る——従来の歯科医師の役目は歯を根本的に治すことではなく、技術を駆使して歯を延命させることに主軸が置かれていたと思います。私はそれに疑問を抱き、何とか根本的な治療がしたかったのでレーザーを取り入れました。八十歳まで自分の歯を二十本残すことを目的に政府主導で始まった「八〇二〇運動」も定着しつつありますが、患者さんの歯に対する意識向上のためにも、削る以外の選択肢をいろんな形で提案できる歯科医師でありたいと思っています。

**萩原** 少し視点を変え、人材教育について伺いたいと思うのですが、院長がスタッフの皆様に望まれることは何ですか。

**祐森** 人間には必ず長所があります。当クリニックにも色々なタイプのスタッフが勤務してくれていますが、それぞれの長所を見抜き、それを職場で生かしてあげることが長としての役目だと自覚しています。私がスタッフの適材適所を考えるのですが、スタッフには高いモチベーションを持って患者さんに対応し、それぞれの仕事をこなしてほしいと思います。また、基本的に私は細かいことは言いませんが、何かあった時は一緒に解決策を考えるようにしています。ちなみにスタッフとコミュニケーションが図りやすいようにと、当クリニックには院長室はなくスタッフルームだけを設け、私もそこでスタッフの皆とできるだけで一緒に雑談しながら休憩するようにしています。開業して八年目ですが、少しずつ私が理想とする組織の形に近づいているのではないかと思います。

**萩原** 院長とスタッフの皆さんが目的を共有しておられるのは、明るい雰囲気に含まれた院内からも十分に感じ取れますし、本当に素晴らしいことだと思います。では、最

④INFORMATION

リラックスした空間で最先端の医療を提供!



SAMPLE

ヤグレーザーの機能に興味津々の萩原氏

後に将来の目標、夢をお聞かせ下さい。

**祐森** 《笑顔の絶えないクリニック》が最終的な目標として、針のない麻酔注射器など私どもが採用している治療法や機器は患者さんの笑顔のためです。そしてそれがクリニックに携わる者のやり甲斐にも繋がると思います。また、常に高度な技術を追いかけ姿勢も維持しなければなりません。先程もこれから注目を集めるであろう方法をいくつかご紹介しましたが、それら以外に私が情報収集に腐心しているのは再生医療です。例えば親知らずの歯を抜き、そこから細胞を抽出し、患者さんご自身の歯を再生しようという画期的な治療法は新聞やテレビなどでも再三にわたり取り上げられていますので、萩原さんも可能性や概要はご存じかと思いますが、この治療法の動向を見守りつつ勉強会にも積極的に参加し、そして確立され、課題がクリアできればすぐにも導入したいと考えています。

**萩原** 何事にも熱心に取り組まれる院長の姿勢が印象に残りました。健康に留意され、これからは患者さんとスタッフのためにますますご活躍頂きたいと思っています。